

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

### ②施設・事業所情報

名称：ララランド戸塚第2 (みんなともだち保育園戸塚第2)	種別：認可保育所
代表者氏名：沖田 奈朋美	定員（利用人数）： 79名（90名）
所在地：〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町4890-1	
TEL：045-392-9713	
ホームページ： <a href="https://la-la-land.co.jp/">https://la-la-land.co.jp/</a>	

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日 2019年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社LaLaLand		
職員数	常勤職員： 16名	非常勤職員： 20名
専門職員	保育士 28名	子育て支援員 1名
	英語講師 2名	栄養士 1名
	調理師 1名	調理員 2名
施設・設備 の概要	(居室数) 保育室6室、事務室1室（医務室兼）、厨房1室、職員休憩室1室	(設備等) 園庭、屋上園庭

### ③理念・基本方針

#### 【保育理念】

自分の未来を創造できるこどもに

#### 【保育方針】

○<環境>一人ひとりが輝ける場所 ～子どもは「百人百色」～

すべての子どもが輝くためには、主体性を大切にしたい取り組みが必要です。

当園では「レジジョ・アプローチ」の考え方を取り入れ、保育者は子どもたちの活動をサポートします。

○<言葉>意思を伝える力を育む場所 ～「枠」にとらわれない世界観を作る～

自分の思いや考えを伝える力。それは未来を切り拓くためには絶対不可欠です。

当園では日本語だけでなく、英語も用いた言語活動により、伝える力を養います。

○<体験>認める力を育む場所 ～本物に触れた体験でしか得られない世界～

人は認めることで、自分自身が成長することができます。「農業体験」や「アート」、

「異文化交流体験」を通して、様々な違いに触れ、混ざり合い、多様なものを認める力を養います。

#### 【保育目標】

○安心感の中で穏やかで安定した子ども

○いつも自分を精一杯表現しようとする子ども

○仲間、家族を大切に、一緒に生活を創り出すことを喜ぶ子ども

○違いを認め合い楽しめる子ども

○より共感する力を持った思いやりのある子ども

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- 農業自然体験に毎月行っています。
  - ・幼児クラスは、会社で保有している保育園バスに乗って横須賀に行き、様々な農業（田植え、芋ほり、野菜の収穫等）や自然の体験（自然散策、川遊び、磯遊び等）を月に1回以上行っています。様々な体験から多様なものを認める力を養っています。
- ALT (Assistant Language Teacher)
  - 外国語指導助手が常駐しています。
  - ・外国語指導助手が常時、保育園にいて、英語に触れる機会が多くなります。英語のレッスンは行っておりませんが、生活の中でALTがお子様に英語で話しかけたり、絵本を読んだり歌を歌ってくれます。その中で様々な表現方法で伝える力を養っています。
- レジジョエミリアアプローチの考え方を取り入れています。
  - ・子どもの主体性を大切にし、保育者は子どもたちの活動をサポートしています。ドキュメンテーション（写真やコメント）を用いて、保護者様に保育の様子を伝えています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月24日（契約日）～2022年4月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回

#### ⑥総評

##### ◆特に評価の高い点

##### ●子どもたちは、様々な経験を重ね、主体的に園生活を楽しんでいます

園は、保育理念に基づき、子どもが自分で考え行動することを大切にしています。

保育室には、子どもの年齢や発達にあわせたおもちゃや教材が並べられ、子どもが自分で選び遊びこめるように環境構成されています。一斉活動でも、室内と園庭の2つの遊びから選択できるようにするなど、子どもが自己決定する機会を作っています。

乳児は生活面をできるだけ同じ保育士が担当することで、子どもが安心し、自分の思いを表出できるように支援しています。保育士に思いを汲み取ってもらい、話しかけてもらって、子どもたちは少しずつ自分の思いを言葉で表出できるように育っています。幼児は、話し合いの機会を多く持ち、4歳児がお互いを思いやる言葉の使い方について話し合ったり、5歳が発表会の劇の物語や小道具、構成などを自分たちで話し合っ決めて決めています。

毎日園庭や屋上で身体を動かすとともに、季節の製作や歌、ダンス、読み聞かせなどの表現活動にも力を入れています。幼児は農業自然体験として、バスにのって横須賀の契約農家に出かけ、田植えや稲刈り、麦踏みやパン作り、野菜の収穫など、子どもが様々な経験をできるようにしています。

このような取り組みを通して、子どもたちは自分らしさを発揮し、元気に園生活を楽しんでいます。

##### ●保育士は自己の保育を振り返り、保育の質の向上に向けて取り組んでいます

園は、週1回職員ミーティングを行って情報共有を図るとともに、クラスから上がった課題について検討し、保育の質の向上を図っています。

毎月のクラス会議では、一人ひとりの子どもの姿について話し合っ、保育の振り返りをしています。4期ごとに年間指導計画の項目ごとに自己評価をし、年度末には、スタッフポリシーに基づく「人事考課シート」と「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて自己点検して、職員会議で課題の共有と改善策について検討しています。

このように、話し合いの機会を多く持つことで、職員間のコミュニケーションが図られていて、少しずつ園の体制が整いつつあります。

園では、開園3年間で明らかになった課題解決に向けて職員とともに取り組むことで、園の特色をより明確にしていきたいと考えています。

### ●保護者との関係作りに力を入れています

保護者が園の保育を理解し、共に子育てしていただけるよう、保護者との関係作りに力を入れています。

朝夕の送迎時には、保護者と会話し、子どもの園での様子を伝え、情報交換しています。毎月、園だよりを発行するとともに、年数回クラスの活動の様子を写真に撮ってドキュメンテーションとしてまとめて掲示したり、行事や遊びの様子を動画配信するなどし、保護者に子どもの様子を伝えていきます。

コロナ禍のため、保護者参加行事の実施が難しくなっていますが、懇談会や個人面談をオンラインで行ったり、運動会は2・4歳児、3・5歳児の2部制で行って保護者一人が参加できるようにするなど、工夫しています。

園では、保育の意図を目で見えてわかるようにして、保護者に伝えていく予定です。

### ◆改善を求められる点

#### ●職員と話し合って目指す方向性を明確にし、事業計画を策定していくことが期待されます

法人が策定した事業計画には中期的な方向性とそれに基づく年度の事業計画が記載されています。ただし、具体的な数値目標や成果等の策定はなく、園として評価できるものとはなっていません。また、法人の事業計画を基にした園の事業計画も策定されていません。法人理念に基づく園の目指す方向性を明確にして、園を取り巻く課題と改善策について職員と話し合い、園としての事業計画を策定していくことが期待されます

#### ●地域との交流に取り組みられることが期待されます

法人モットーや中期計画に地域交流を掲げていますが、地域との関わりは、ハロウィンに子どもたちが仮装して地域を散歩するなどに留まり、地域行事への参加や地域住民との交流は今後の課題となっています。また、地域のニーズを把握・分析したり、地域に向けて園の存在を発信するなどしていません。

園の体制が整ってきたこともあり、園の存在を地域に認識してもらおうとともに、子どもたちが地域を知り、経験値を広げるためにも、地域と交流する機会を工夫していくことが期待されます。また、把握した地域の福祉ニーズを基に、オンラインなども活用し、地域に向けて、園の特徴を生かした子育て支援の実施も期待されます。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園3年目になり、今回、第三者評価を受審させていただきました。3年間で保育が形になり始めてきたところで『保育の質の向上』に向けて職員全員で自己評価に取り組みました。

各自評価したものを持ち寄り、常勤・非常勤含めて4つの小グループに分かれ、それぞれが時間を見つけて話し合いを進めていきました。他の人の意見を聞くことで、お互いの考えや思いに気がついたり、様々な意見があることを知る機会となりました。そして、その中で保育の振り返り、到達点、今後の課題を客観的に知ることができました。

訪問実地調査では、保育を細かく見ていただき、心から感謝しております。

保護者の方々には、お忙しい中アンケートに協力をいただき、ありがとうございました。貴重なご意見をいただき、保護者の皆様の関心の高さが伺えました。改善点など、出来るものから順次行い、今後の保育に活かしていきたいと思っております。

私たちはこの受審結果を真摯に受け止め、課題を検証し、よりよい保育を提供していくことができるよう、これからも皆で力をあわせて進んでいきたいと思っております。

ララランド戸塚第2（みんなともだち保育園戸塚第2）

職員一同

## ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり